

## 2015年度 集中講義 講義内容

みのわけんりょう  
袁輪顕量

東京大学大学院教授  
博士(文学)



### 11 現代日本仏教に見られる特徴は何か —宗派意識と現代的意義—

現代の日本仏教は果たしてどのような役割を果たしているのだろうか。ともすれば、忘れがちであって行事の時にしか登場しないように見えるが、その重要性を考えてみたい。一つには思想的な観点から、一つには、実践論的な観点から。歴史的な経緯を踏まえながら、現代の仏教が果たせる役割について、講義したい。

〈参考書〉『事典 日本の仏教』袁輪顕量 (吉川弘文館 2014年)

ほさかしゅんじ  
保坂俊司

中央大学総合政策  
学部大学院教授  
公益財団法人中村  
元東方研究所理事



### 12 仏教・ヒンドゥー教・イスラーム教の対話

インドの歴史は、異なる宗教の出会い、相克、そして融合の歴史であったといえます。これをインドにおける宗教対話と呼べば、インドほど宗教対話に富んだ国は他に見いだせないでしょう。インドの精神伝統は多様性にあり、異質なものを排除しないという寛容思想は、極めて自己絶対化に厳しいイスラーム教でさえ諸宗教融合を称えたほどです。

ところで、日本人がこのインドの寛容思想を学ぶ意義は、第一に、インドの宗教史の多様性を知るのみならず、実は日本の伝統思想である神仏習合の思想的な背景を知ることに通じるという意味で、日本文化の基本的な思想の枠組みを知ることでもあります。第二に、イスラーム台頭による紛争の多発の時代において、イスラームと如何に平和的な共存が可能となるか、その思想的、更には文化的な知恵を、インドの宗教対話の実例から学ぶことにあります。少なくとも、インドにおいて繰り広げられた命がけの宗教対話の歴史の緊張感を共有することは、宗教紛争にほとんど無縁であった日本人には刺激的且つ有意義なものとなると思われます。世界の動向に関心のある方の聴講をお待ちしています。

〈参考書〉『文明の衝突』S.ハンチントン (集英社)  
『インド的思考』前田専學 (春秋社)

しゃくごしん  
釈 悟震



中村元記念館東洋  
思想文化研究所副  
所長  
文学博士  
公益財団法人中村  
元東方研究所研究  
員  
韓国国立ソウル大  
学客員研究員  
スリランカ国立ペ  
ラデニア大学客員  
研究員

### 13 『華嚴経』へのいざない

中村元博士は『華嚴思想』(法蔵館、1960年)の中で、「『華嚴経』はある意味で東洋的思惟の最も絢爛たる結実であるということもできるであろう。現在のわれわれが『華嚴経』から教えられることがらは非常に多いと思われる」と著している。この講義では、中村博士の教示からもわかるように、今日の多様化された社会および人間環境においてブツダの悟りをそのまま説き明かしたとされる華嚴経を、できるだけわかりやすく紹介する。そして、古からの日本仏教や朝鮮半島または中国仏教における『華嚴経』にまつわる祖師たちの実際的な行脚からこの経の真髄を読み解き、現代に昇華させ、「共に生きる」叡智を学びます。

〈テキスト〉『華嚴入門』玉城康四郎 (春秋社) (購入が必要)  
〈参考書〉

『華嚴経』『楞伽経』(現代語訳大乘仏典) 中村元 (東京書籍)  
『華嚴の思想』鎌田茂雄 (講談社)

まるいひろし  
丸井 浩



東京大学大学院人  
文社会系研究科  
教授  
公益財団法人中村  
元東方研究所 常  
務理事  
日本学術会議第23  
期連携会員

### 14 近代以降のインド的思惟の特質

ヨーロッパ諸国、特に英国による植民地化が、インド社会・経済・政治に深く浸透するようになった18世紀後半以降、インド的思惟の展開は新たな局面を迎えた。インドの伝統的な宗教・哲学を固持しようとする保守派もいたが、西洋化はインドの思想界をも大きく揺り動かした。19世紀半ば以降は、高等教育が英語で行われるようになり、いよいよ事態は深刻化していく。こうした時代を生き抜き、インド精神の解放、あるいは蘇生、さらには政治的独立を図ろうとした何人かの思想家(ガンジーほか)を取り上げてみたい。

